

飯山市埋蔵文化財調査報告 第72集

# 上野遺跡 XI

2005・11

飯山市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、長野県飯山市大字常盤字道上3510-4ほかに所在する上野遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は上野公民館建設事業に伴い、飯山市教育委員会が調査主体となって平成17年4月11日より同年4月14日まで実施した。
- 3 発掘調査に伴う組織・関係者は以下のとおりである。

調査主体者	清水 長雄	飯山市教育委員会教育長
事務局	米持 五郎	市教育委員会教育次長（兼）生涯学習課長
	望月 静雄	生涯学習課長補佐（兼）生涯教育係長（兼）文化財係長
	野本 裕美	生涯学習課文化財係主事補
	丑山 直美	生涯学習課文化財係学芸員
調査担当者	望月 静雄	市教育委員会事務局
調査員	丑山 直美	〃
調査補助員	藤沢 和枝	市埋蔵文化財センター
調査参加者	万場義秋・高橋喜久治・徳永俊博	
調査面積194㎡	主な遺構遺物 ピット・縄文式土器片・弥生式土器片	
- 6 調査において下記の機関・諸氏からご指導をいただいた。記して厚く御礼申し上げます（順不同・敬称略）。  
上野区(平成17年度小出正光区長)・(株)北誠商事
- 7 整理作業並びに本報告書の作成は、調査補助員藤沢和枝が図面・遺物整理、作図・トレースを行い、調査担当望月が執筆した。文責は望月にある。
- 8 調査に伴う図面・出土遺物は、飯山市埋蔵文化財センターで保管している。

# 目 次

1	景観 .....	1
	(1) 位置 .....	1
	(2) 遺跡の環境 .....	1
2	上野遺跡 .....	4
	(1) 上野遺跡発掘記録 .....	4
	(2) 遺跡概要 .....	4
	(3) 調査区 .....	5
3	発見された遺構と遺物 .....	8
	(1) 遺構 (図4) .....	8
	(2) 遺物 .....	8
4	まとめ .....	8

# 1 景 観

## (1) 位置

上野遺跡は、長野県飯山市大字常盤字道上に所在する。

甲信国境に源を発する千曲川が信濃に残す最後の平が飯山盆地である。飯山盆地を過ぎると千曲川は、信越国境の峡谷地帯（通称市川谷）を下刻曲流しつつ新潟県津南町に至りここで信濃川と名を改め、いわゆる津南段丘群を形成してやがて日本海に注ぐ。

飯山盆地は、南北に16km、東西6kmの紡錘形を呈し、盆地底の標高は300m～320mを計る。西縁は黒岩山(938.6m)、鍋倉山(1288.8m)等比較的低い東頸城丘陵(関田山脈)によって画されている。ここには越後に通ずるいくつかの峠道が存在している。平地は、盆地のほぼ中央を流れる千曲川によって東西に二分される。西側は、飯山市街地より戸狩地区に至る長さ7kmに及ぶ長峰丘陵を介在させて、西側に外様平、東側に常盤平が広がり、当地方最大の穀倉地帯となっている。東側は、その南半にかつての千曲川氾濫原である木島平村が広がるが、千曲川が東縁に近接するにしたがって段丘・丘陵などの微高地が開析谷を隔てて連続的に連なるといった複雑な地貌を呈している。遺跡が位置する上野丘陵は常盤平の東端に位置するが、千曲川を挟んで盆地東縁の段丘群と相対している。

## (2) 遺跡の環境

遺跡の位置する丘陵は、一般的には大倉崎・上野丘陵と呼称されており、東300m、南北800mで、千曲川との比高差は最大で15mを計る。この丘陵の成因については、約二万数千年前に陸化し始めたと考えられ、始良火山灰(AT)降下層準に広がるクラックがそれを物語っている。丘陵の東側は急崖となって千曲川に接しており、中世館跡もこの丘陵の最高位に築かれている。一方、西側は常盤平に向かって緩やかに傾斜している。丘陵北側の上野地区では湧水帯が存在している。

遺跡は、本丘陵の北半を中心として広がっており、この湧水帯を利用した水田耕作が行われていた可能性がある。



写真1 上野遺跡縦前の調査（平成元年）

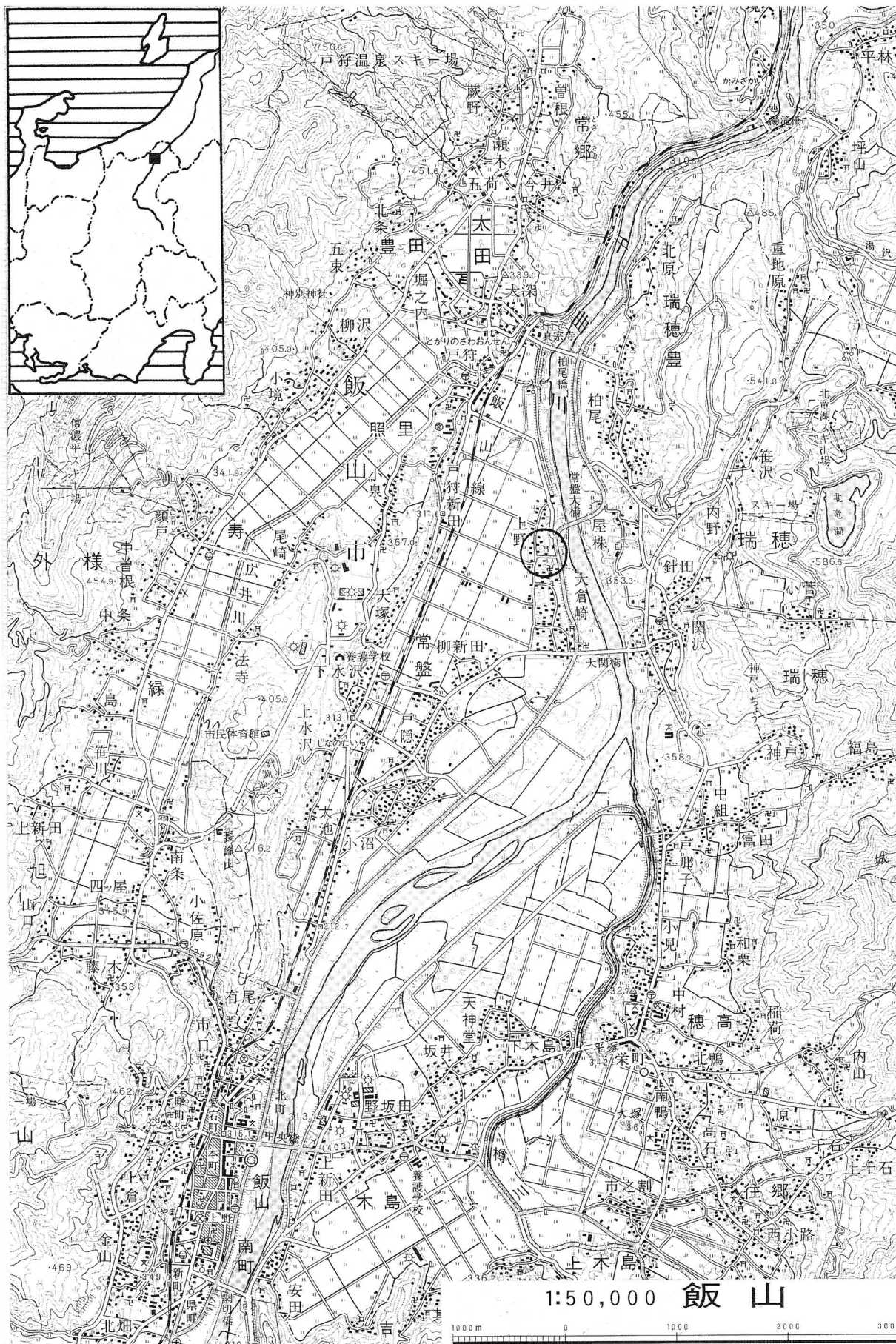
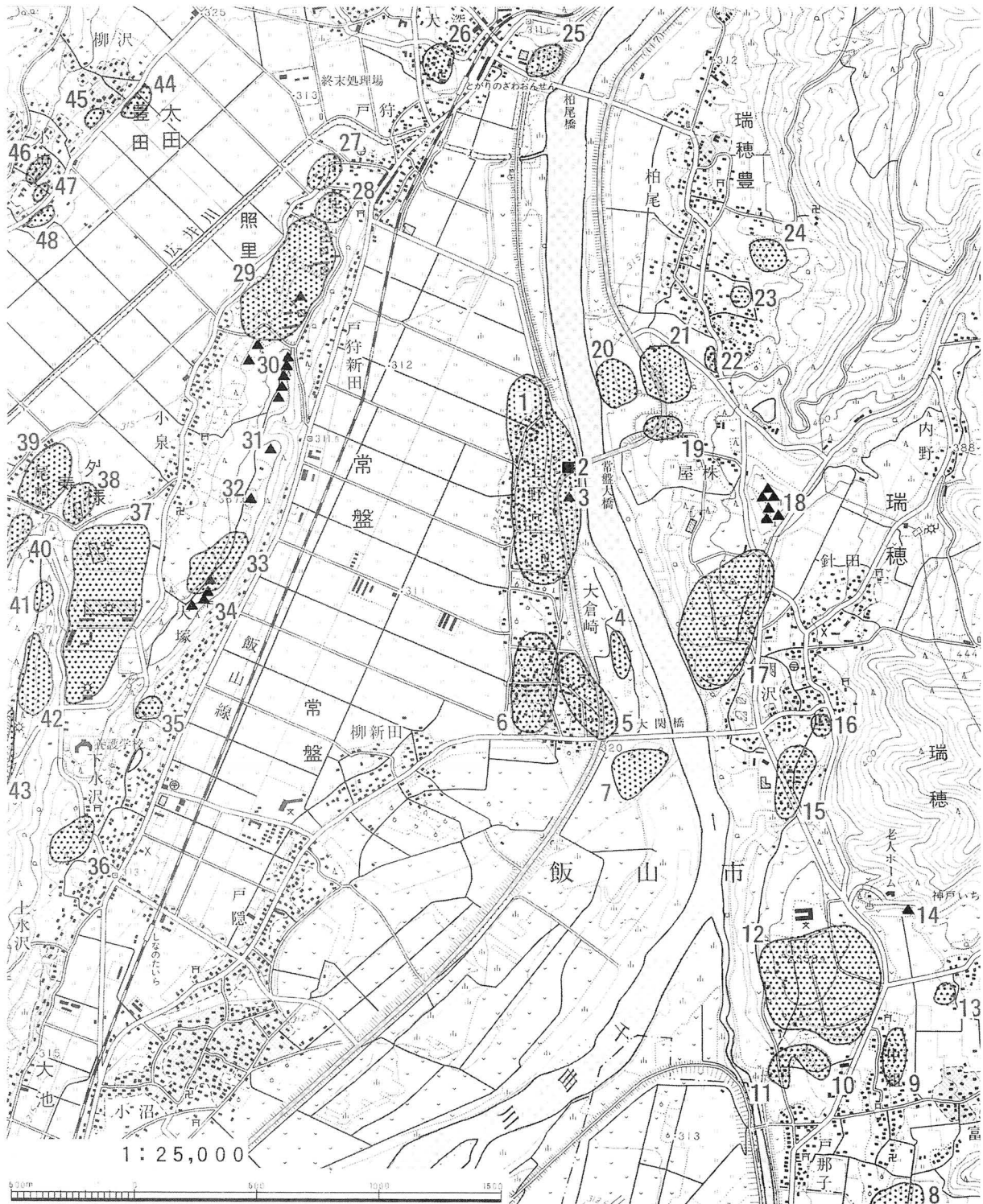


図1 上野遺跡の位置 (1:50000)



1. 上野 2. 大倉崎館 3. 上野古墳 4. 大倉崎Ⅱ 5. 大倉崎 6. 大倉崎Ⅲ 7. 瀬附
8. 尾崎 9. 城の前 10. 犬飼館 11. 千苺 12. 宮中 13. 猿飼田 14. 飯綱堂古墳 15. 関沢
16. 関沢館 17. 太子林 18. 向峰古墳群 19. 屋株 20. 日焼 21. 南原 22. 堺ノ沢
23. 柏尾南館 24. 上ノ原 25. 真宗寺 26. 岡峰 27. 旧照里小学校 28. 光明寺前 29. 照丘
30. 照里古墳群 31・32. 茶臼山古墳群 33. 大塚 34. 大塚古墳群 35. 水沢 36. 下水沢
37. 小泉 38. 両面寺 39. 柳町 40. 山崎 41. 尾崎南 42. 東長峰 43. 西長峰 44. 柳沢A
45. 柳沢B 46. 鶴屋敷 47. 桜沢 48. 小境

図2 周辺遺跡分布図 (1:25000)

## 2 上野遺跡

### (1) 上野遺跡発掘記録

上野遺跡は、これまで10回の発掘調査が実施されており、それぞれ調査報告書も発刊されている。

調査の結果、上野遺跡は旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世と各時代の遺構・遺物が確認され、飯山地方でも有数の大複合遺跡であることが明らかにされた。

#### 上野遺跡調査一覧

1988 (昭和63)年 9月28日～11月22日	上野の館 (大倉崎館)跡	1000㎡
1989 (平成元)年 6月13日～9月19日	国道117号バイパス敷設	5000㎡
1990 (平成2)年 6月10日～7月11日	市道7-335号線拡幅	300㎡
1992 (平成4)年 6月11日～10月2日	工場団地取り付け道路敷設	3700㎡
1993 (平成5)年 5月20日～7月30日	チェーン着脱場建設	1500㎡
1994 (平成6)年 5月11日～7月2日	揚水機場建設	1100㎡
9月19日～9月29日	店舗・住宅建設建設確認	350㎡
1995 (平成7)年 4月20日～5月31日	店舗・住宅本調査	870㎡
1996 (平成8)年 4月24日～5月30日	住宅兼店舗・農機具格納庫	470㎡
1998 (平成10)年 4月28日～5月31日	住宅兼店舗建設	800㎡

### (2) 遺跡概要

これまでの調査で発見された遺構、遺物は次のとおりである。

旧石器時代 石器群25地点、ナイフ形石器・搔器・尖頭器ほか

縄文時代 落とし穴53(溝状50・長方形土坑3)、早・前・中・後・晩期土器片、石器

弥生時代 中期住居址14、後期住居址3、掘立柱建物址48、木棺墓72(内礫床木棺墓2、土坑墓10、中・後期土器、石器、勾玉、管玉、土製、紡錘車ほか

古墳時代 初頭北陸系竪穴住居址1、掘立柱建物址1、初頭方形周溝墓12、初頭北陸系土器

平安時代 竪穴住居址36、掘立柱建物址10、土坑墓6、木棺墓2、集石土坑2、溝1、土器、陶器、鉄製品、フイゴ羽口、鉄滓、石製丸靱、砥石、軽石、土錘ほか

中世 館跡1、輸入陶磁器、国産陶器、瓦質土器、石臼、茶臼、鉄製品、銭貨ほか

旧石器時代の遺構は、石器集中箇所・礫群が25箇所も発見されている。時期的には、ナイフ形石器盛行時から終末期までの石器群が認められるので、永い間に何回も繰り返して居住した傾向がみとめられる。おそらく千曲川河岸の拠点的な場所として使用されていたのではないかと考えられる。

一方、縄文時代においては各時期の遺物が発見されているが、遺構では落とし穴のみで、居住の場所ではなかったようだ。丘陵全体に落とし穴が計画的に設置されているように思われ、縄文時代には専ら狩猟場として利用されていたのではないかと考えられる。

弥生時代には一転して住居が確認されており、ムラがつくられたことがわかる。千曲川の水を用水として利用したとは考えられないが、丘陵西下からの湧水を利用して水稻耕作を行ったのではないかと考えられる。なお、木棺墓などが大量に発見されており、集団移住してきた可能性がある。

古墳時代では、初頭の住居址が1軒のみ発見されている。ただ、方形周溝墓12基が発見されているので、今後当該時期の家が発見される可能性があるが、中期以降は遺物も発見されていないので、以降平安時代まで空白の時期となる。

平安時代では、9世紀前半以降急にムラが現れる。約500mの範囲内で、南北に分かれながら数件ずつ認められるので、最低二村があった可能性がある。また、住居内から鍛冶遺物が発見されたことから、すでに村の中に鍛冶職人がいたことを示している。また、石製丸軋の出土は、村の中には役人クラスの者の存在も推定させる。

中世では、14～15世紀代の豪族の館跡が発見されている。輸入陶磁器、瓦質風炉や茶臼の出土など、地方豪族の優雅な暮らしぶりを垣間見ることができるが、一方では融けた銅銭や火熱を受けひび割れた陶磁器の出土は、本館が火災に遭ったことを示しており、動乱の世であったことを考えれば「火責め」に遭ったとの指摘もうなずける。

### (3) 調査区(図3)

調査は上野区公民館建築に伴う調査であり、全額市費負担の中で、費用がかかるために座標による調査区設定ができず、これまで上野遺跡で使用していた大地区割りは使用できなかった。なお、調査区は旧施設があったすぐ南側に任意に設定し、公民館の用地境杭を入れて場所が特定できるようにした。当初、東西5m×南北3mの調査区を設けたが、後に拡張し、5×4mで19.4㎡を調査した。



写真2 調査風景





図3 上野遺跡発掘調査地 (1:2000)

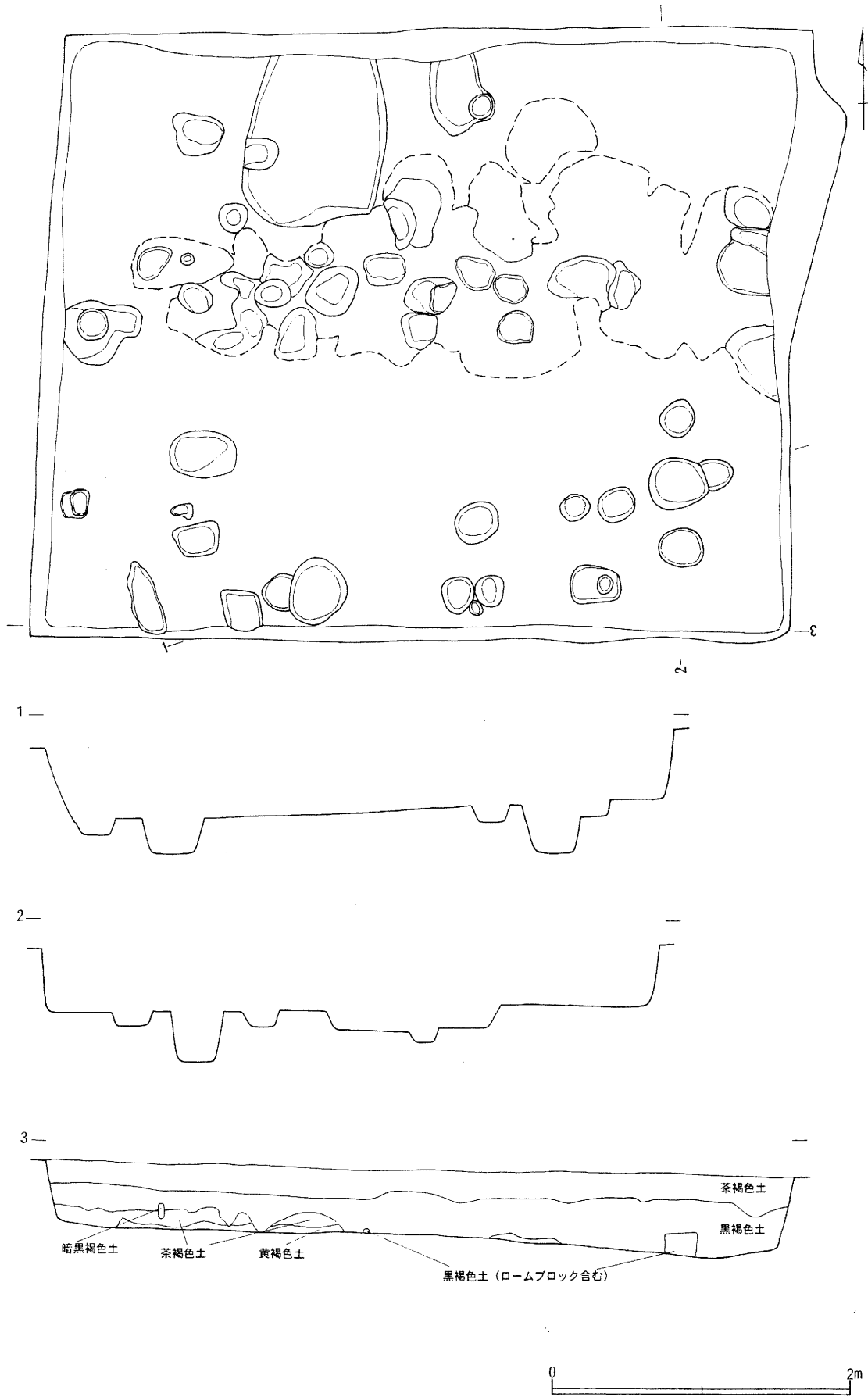


図4 調査区違構分布図 (1:40)

## 3 発見された遺構と遺物

### (1) 遺構(図4)

本調査で発見された遺構は明確ではないがピットと推定される遺構がいくつか確認されている。ただし、いずれも建物になるような配置ではなく、深さも一定していない。調査中の所見やセクションにおいては攪乱が認められないことから、当該期の遺構と考えられるが、建物の柱穴ではないようだ。

### (2) 遺物(図5)

調査区において覆土中より縄文式土器及び弥生式土器が出土した。いずれも小片であり、全形のうかがえるものはないが、その文様等から次のように分類される。

縄文式土器

いずれも前期土器で、格子目文や縄文が施されている。諸磯様式期のものと考えられる。

弥生式土器

いずれも中期の土器で、壺(6～16)と甕(17～21)がある。壺は、沈線がめぐるもの(6・12)や縄文地文に沈線で区画されるもの(7・10・11・15)がある。8は、懸垂文と刺突文や太い沈線と櫛描文が横走る。9は、沈線区画に櫛描文や刺突文が見られる。17以降は甕で、17～19は櫛描きの格子目文、20・21は、櫛描きの羽状文が施されている。

これらは、いずれも中期栗林式期のものである。

## 4 まとめ

当地方は積雪のため冬期間は調査ができず、雪解け後の建設までのきわめて短期間での調査であった。また、今回の調査は、地区公民館建設に伴うもので、既存の施設を取り壊して新たに建設するというものであった。そのため期間は限られていたが、破壊を受けていない場所は限られていたため、記録保存という目的はほぼ達成できたのではないかと思う。また、上野遺跡の主体と考えられる場所よりやや西端部と思われ、その意味で、遺構・遺物の出土量が少なかったことも幸いした。

今回の調査でご協力いただいた、上野区及び施工業者の(株)北誠商事には重機等便宜を図っていただいた。記して御礼申し上げます。

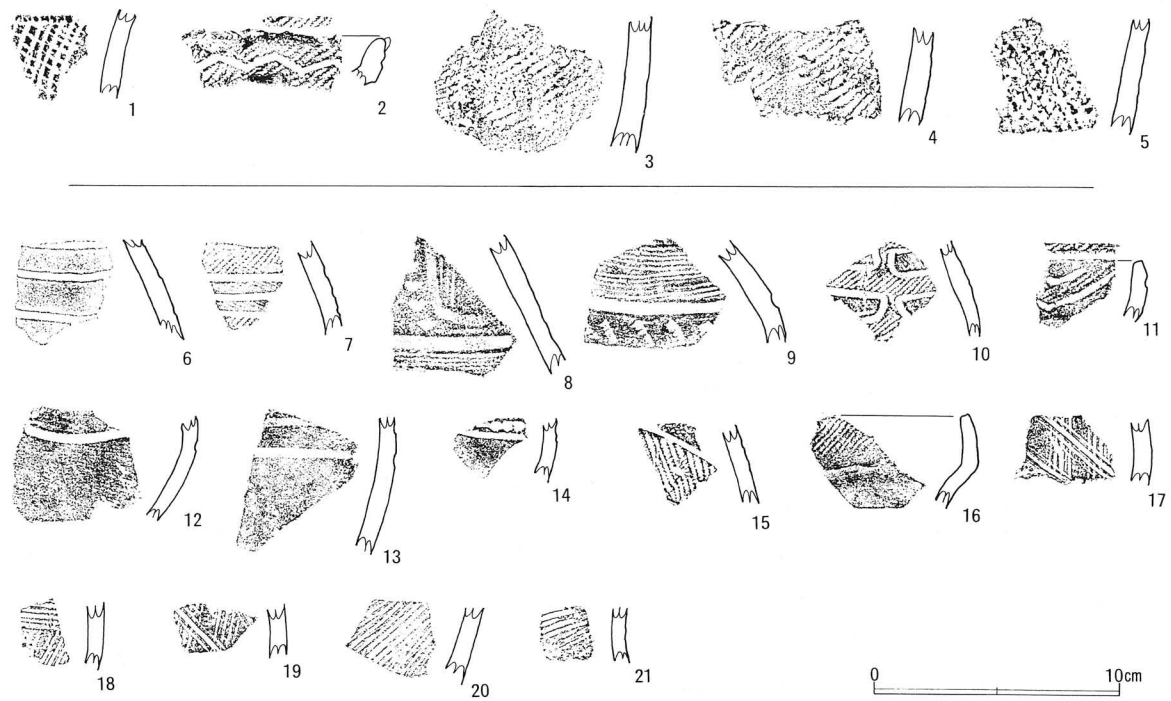


图5 遺物拓影図 (1:3)

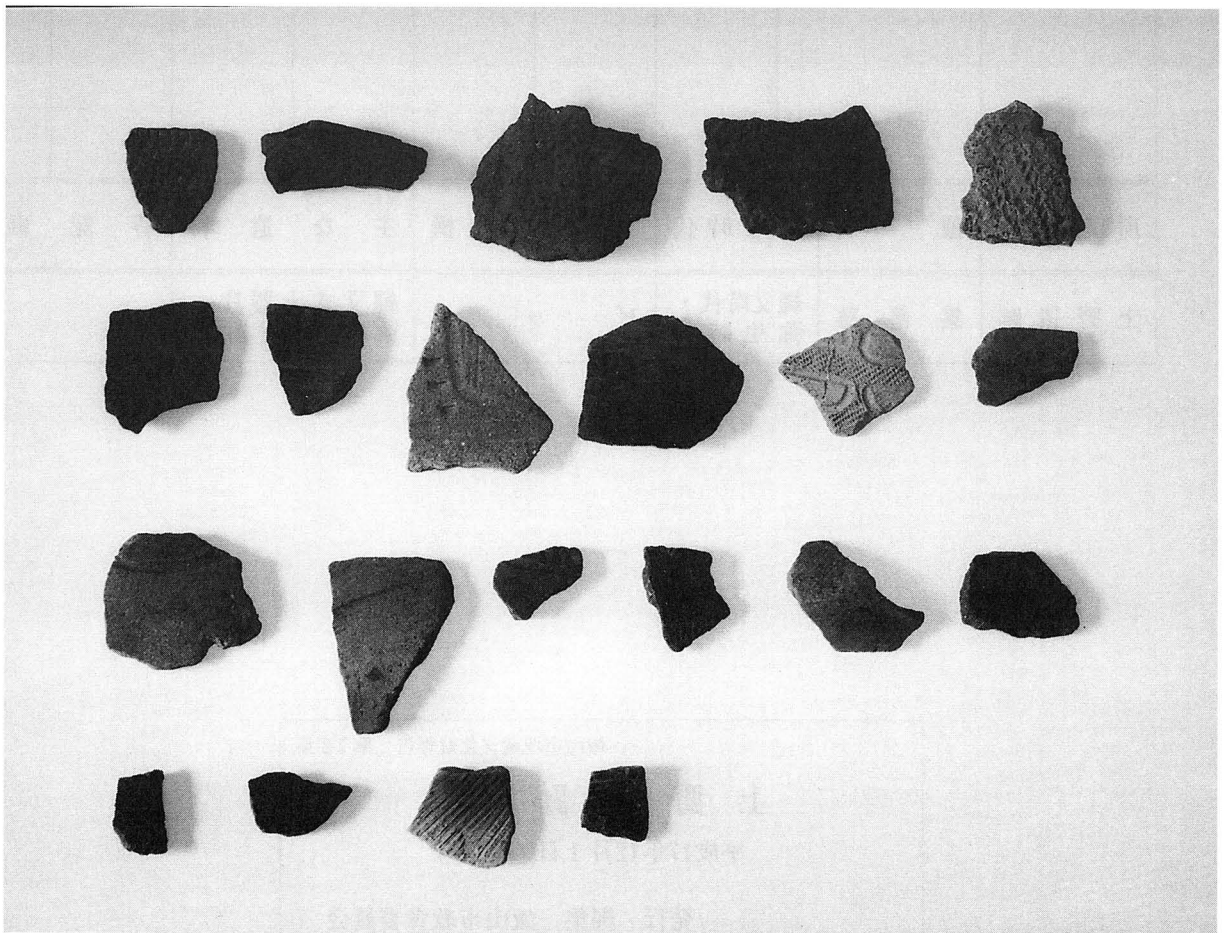


写真3 出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	うえのいせき じゅういち							
書名	上野遺跡 XI							
副書名								
巻次								
シリーズ名	飯山市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第72集							
編著者名	望月静雄							
編集機関	飯山市教育委員会							
所在地	〒389-2292 長野県飯山市飯山1110-1 電話0269(62)3111 内線352							
発行年月日	平成17年11月1日							
ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 。 ’ ”	東 経 。 ’ ”	調査期間	調査面積	調査原因
うえのいせき 上野遺跡	飯山市大字常盤 字道上3510-4	20213	77	36度 53分 52秒	138度 23分 56秒	20050411 } 20050414	19.4㎡	区公民館 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
上野遺跡	集 落 跡	縄文時代・ 弥生時代	ピ ッ ト	縄文式土器片・ 弥生式土器片				

飯山市埋蔵文化財報告 第72集

## 上野遺跡 XI

平成17年12月1日 発行

発行・編集 飯山市教育委員会  
印刷 (有) 足立印刷所

